

## 中・高家庭科における授業研究

那智勝浦町立那智中学校 松本年絵  
太地町立太地中学校 浜 敬子  
有田市立保田中学校 北又寿美  
岬町立岬中学校 大野美鈴  
和歌山大学附属中学校 川嶋径代  
和歌山大学教育学部 村田順子、今村律子、山本奈美

### 1. はじめに

新学習指導要領（平成29年3月公示）では、小・中・高等学校の内容の系統性の明確化が示されている。これまで中学校における授業実践等の連携研究を実施してきたが、本研究ではこれまでの連携研究の継続として情報共有・意見交換を通し教員の授業力向上につなげることに加え、高等学校での学習内容を見通した授業について検討することを目指し研究活動を行った。以下、その活動内容について報告する。

### 2. 活動概要

#### (1) 東牟婁地方中学校技術・家庭科研究会 実技講習会

2018年7月31日・午前：太地中学校、午後：那智勝浦町町民センター

この連携研究は2014年から継続して実施しているものであり、「東牟婁地方中学校技術・家庭科研究会 実技講習会（以下、研修会と略す）」に大学教員が参加し、授業づくりについて意見交換を行っている。本年度の研修会は、午前の部では講師を招いてミシンを使っての実習の講習会、午後の部では授業実践交流会が行われた。参加者は、午前の部10名、午後の部7名で、本学教員2名が午後の部に参加した。

東牟婁地方のほとんどの中学校では免許外の教員が家庭科を担当しているため、初めて家庭科を担当する教員もあり、実習を伴う授業に不安を抱える教員が多い。実習の講習会は、教材のアレンジ方法や指導のポイントなどを教えてもらえる貴重な機会として捉えられている。免許外の教員の授業づくりを支援するため、研修会では、免許を有する教員が中心となり各教員が実施した授業概要をまとめたCDを作成し配布する取り組みも行っている。

午後の部の授業実践交流会では、「A 家族・家庭生活」分野の「幼児と触れ合う活動」に関して意見交換を行った。昨年度実施したアンケート調査結果も交え、具体的な取り組みの紹介および意見交換がなされた。大学教員からは、「活動の実施」が目的化しないよう生徒に何を学ばせたいのか活動の目的を明確にすること、保育園や幼稚園を訪問する際の視点などについて資料を提示しながら助言が行われた。

新学習指導要領では、幼児（高等学校では乳幼児）や高齢者との関わる活動の充実が、中・高ともに図られている。触れ合う活動においても、今後は高等学校での学習につなげることを意識する必要があるだろう。

#### (2) 近畿地区中学校技術・家庭科研究大会参加 滋賀大会

2018年11月9日 津市真野中学校

「第57回近畿地区中学校技術・家庭科研究大会」において、公開授業参観および研究協議に参加した。那智中学校、太地中学校の教員が研究発表を行い、大学教員が指導助言を行った。研究大会に向けて、発表者と大学教員とで発表内容についての打ち合わせを大学で行なったり、メールのやり取りで発表準備を進めた。

### (3) 教材研究

高齢者の住宅内事故への理解を深めるため原因と対策に焦点をあて作成した「家庭内事故防止すごろく」を、昨年度と今年度にかけて附属中学校、文成中学校、岬中学校で授業実践をしてもらった。教員と学生が授業参観し、授業後に課題について意見交換を行い、次の授業実践につなげた。その後、授業・生徒のワークシートの記述を分析し、改訂版を作成した(図1)。

すごろくを通し、生徒たちは住宅内事故を防ぐ手立てがあることを理解したことが把握できた。しかし、対策として介護保険制度を利用した住宅改修(住宅リフォーム)のみを示していたため、中学生自身が実施できるものではなく、生活実践に結び付きにくいことが課題としてあげられた。また、生徒のワークシートの記述には、リフォームの経済的負担についての指摘もあった。更に、介護保険制度は高等学校で学ぶ内容であり先取りした学習内容となっているため、授業の中で介護保険制度を説明する時間が必要となり時間配分が難しくなること、学習内容が盛り沢山になることが課題としてあがった。そこで、改訂版では金銭的負担を伴うリフォームだけではなく、日常生活の中で実践できることがあることに気づけるよう「対策ゾーン」の項目を修正し、リフォームは対策の1つとして扱うこととした(図2)。授業では、介護保険制度の住宅改修については、利用できる社会的制度があることを知る程度の説明にとどめる。升目の内容も日常生活の中でできる予防策の項目を増やした。対策と升目の内容を更に検討し、日常の住まい方の工夫で家庭内事故の予防が可能であることに気づけるか、授業実践により検証していきたい。

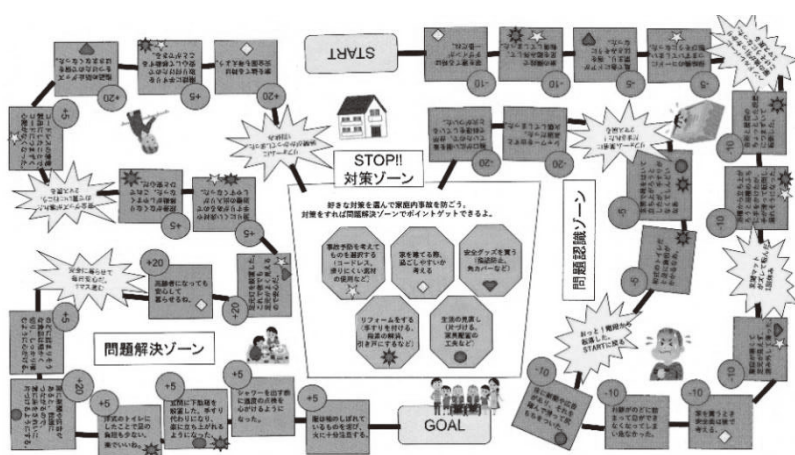


図1 すごろく改訂版

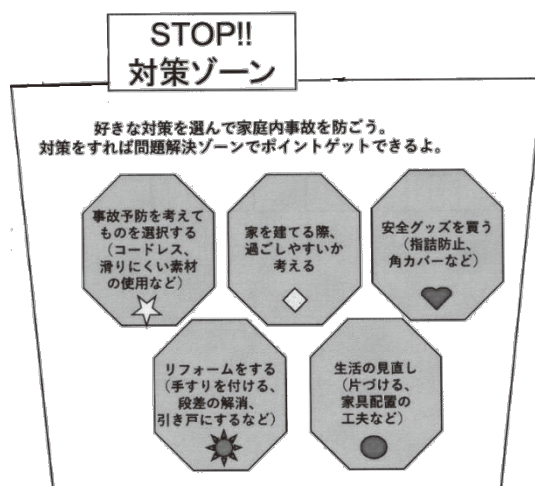


図2 改訂版の対策ゾーン

### 3. おわりに

本連携研究は、和歌山県下および大阪府下の複数の中学校と連携して実施した。各中学校の状況が異なり同じ学習内容の実施においても生じる課題が異なる。東牟婁地方の研修会に大学教員が継続的に参加し、現場の多様な実情について情報を共有し意見交換を図ることができるのは有益な取り組みであると考えられる。免許外の教員が家庭科を担当する際の困難に対し、よりよい授業実践に役立てるためのCD資料作成・配布といった現場教員の取り組みは評価に値する。今後は、大学教員がそこにどう関わっていくべきかが課題である。

学生と共に作成した教材を複数の現場で使用してもらったことは、大きな成果であった。これから教壇に立つ学生にとって、自身が作成した教材を用いた複数の授業者による授業実践を参観させてもらったことは、今後の教員生活に大いに役立つ経験だったと思われる。ワークシートの分析を通して、授業の目的に即した教材を作成することの重要性のみならず、同じ教材を使用しても授業の展開方法により生徒の学びも異なることが把握することができた。その結果をもとに、授業案を作成し、連携中学校の協力のもと授業実践によるすごろくの改訂版の評価を行っていきたい。